

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	みやぎけんけせんぬまこうとうがっこう				②所在都道府県	宮城県
28～32	①学校名	宮城県気仙沼高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制 普通科 754名 在籍	
普通科	241	235	278		754		
⑥研究開発構想名	海を素材とするグローバルリテラシー育成 ～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～						
⑦研究開発の概要	東日本大震災の経験を活かし、協働型学習、東日本大震災復興の2つのプログラムと、スモールステップ、ダイレクターニング、教員専門性開発の3つのアプローチの手法を開発実践することで、グローバルリテラシーを育み、地域から世界に直接アクセスし、対話によって合意を形成し行動できるグローバルリーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>「海洋問題に係る協働型学習を中心とするプログラムによりグローバルリテラシーを育み、地域から世界に直接アクセスし、対話によって合意を形成し行動できるグローバルリーダーを育成する」ことを目的とするカリキュラム開発を行う。</p> <p>グローバルリテラシーを、様々な課題に対して本質を見抜き自分の考えを明確にして合理的に判断できる「思考力」、グローバル環境下で合意を形成できる総合的な「コミュニケーション力」、社会や自然をシステムとして理解しその多様性を認め合って相互の合意に基づき行動がとれる「多様性・協働性・行動力」と捉え、それらを育成することによってグローバルリーダーを育成しようとするものである。</p> <p>本事業を活用し、地域及び大学等と密接に連携をとりながら、地域と世界に共通する課題としての海洋問題に多面的にアプローチする協働型学習を中心とした探究的な学習を推進し、地域として一貫的にグローバルリテラシーを育み、グローバルリーダーたる人材、グローバルな視点を持つスケールの大きな復興の担い手を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>気仙沼地域は遠洋漁業基地であることから世界各地を身近に感じる環境がある。それを活かし、地域をあげて国際交流、ユネスコスクール活動に取り組んできた。東日本大震災（以下「大震災」と記す）の被災と復旧・復興の中で、地域産業の世界に向けた発信力の不足、少子化・高齢化の加速と若者が地域に留まらない状況が地域課題となり、グローバルな視点を持つスケールの大きな復興の担い手の育成が急務となっている。</p> <p>本校では、これまで英語教育、国際教育、科学教育に力を入れ、大震災後は、積極的に国外交流を進めてきたものの、国外交流を如何に組織化し、コミュニケーションをとることに対する不安を取り除いて参加生徒の裾野を広げるかが課題となっている。また、大震災の経験を活かした活動の発信は被災地校としての使命とも考えている。</p> <p>地域的な身近な視点を世界的な視野へと広げてグローバルに未来を構想できる海を素材としてグローバルリテラシーを育み、グローバルリーダー及びスケールの大きな復興の担い手を育成すべく、以下の仮説を設定し研究開発する。</p> <p>【仮説1】協働型学習プログラムに取り組むことで、グローバルリテラシーとしての思考力、コミュニケーション力、多様性・協働性・行動力を育成できる。</p> <p>【仮説2】東日本大震災復興プログラムに取り組むことで、大震災の経験を活かすスケールの大きな復興の担い手を育成できる。</p> <p>【仮説3】教員専門性開発アプローチによる全校あげての取組、地域と連携した一貫性ある人材育成への取組で、【仮説1】【仮説2】に対する活動を一層推進できる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会や英語コンテスト優秀者など一堂に会した総合発表会を公開で行う。 ・課題研究の成果を校内外の発表会や学会、海外研修等で発表する。 ・国内外で連携する大学・高校、地域・生徒・保護者等に向けて研究発表を行う。 ・研究成果をまとめた冊子や「SGH通信」発行等で、広報活動を行う。 					

		<ul style="list-style-type: none"> ・他のSGH指定校の発表会等へ参加する。 ・学校ホームページにより、研究成果等の情報提供・報告を行う。
<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容 グローバル課題「海洋問題」に対して、「海と防災」，「海と産業」，「海と人間」，「海と文化」，「三陸の自然」の5つの領域から研究を重ねて、地域の課題を理解し、グローバルな思考によって課題解決をめざす課題研究を行う。研究の過程において、意見交換や成果の交換の場として、域内高校間連携，SSH・SGH校との連携，域内小中学校連携，域内若者世代交流，台湾研修，海外連携校との相互訪問やインターネットによる交流を進める。学校設定科目「地域社会研究」「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」において取り組む。 総合的な学習の時間での「志教育」では、自己理解，職業理解，学問研究を通して将来の進路設計力を養うとともに、地域社会や世界規模で価値の高い生き方，自己を活かす生き方を探究する進路学習を行う。 また、津波等の大きな被害を受けた大震災の経験を素材とし「震災・防災学習」に取り組むことで、多様性・協働性・行動力の育成を目指す。具体的には特別講義やワークショップ，台湾研修における防災比較研究，アクティブラーニング型防災学習等を行う。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 上記課題研究を実践する手法として、スモールステップ・アプローチおよびダイレクターニング・アプローチを用いる。スモールステップ・アプローチは、目標となる資質・能力を具体化し、各要素の育成に向けて活動ごと・学年ごとに指導観点及び評価規準を明確化して作成した「スモールステップ表」に基づき、資質・能力の獲得に向けて段階的に取り組む手法である。また、ダイレクターニング・アプローチは、実物やフィールドワーク，各分野の最先端研究者や一流の実践者等，いわゆる「本物」と接する機会を数多く設け、生徒の意欲を喚起する手法である。 また、以下の検証評価を行う。「地域社会研究」「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「震災・防災学習」においては生徒及び教員の自己評価，「スモールステップ表」に基づいて行うパフォーマンス評価，連携大学や第三者からの評価を行う。また、「志教育」においては「スモールステップ表」によるパフォーマンス評価を中心に，その他の成果物として、志望理由書，学びの報告書，学びの設計図に基づく評価を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 適用なし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 <英語指導法の抜本的な見直しに取り組む> グローバルリテラシー獲得の基礎となる語学力を養成する。 <教員専門性開発アプローチ> 【仮説1】【仮説2】に対する取り組みを推進する環境づくりとして、問題解決型学習指導法やパフォーマンス評価法の開発など、継続的・発展的に繰り返していくらせん型研修システムを構築する。教員及び生徒を対象とした自己評価アンケートを行うとともに、外部からの指導助言を受けながら、全教職員で授業改善の研修を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 適用なし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 環境整備：コンピュータ室，インターネット会議システム，関連図書の実備・充実を図る。また、海外留学生との交流会や、短期海外留学への参加を促す。 教育課程課外の取組内容・実施方法：各種交流会において、震災復興や地域創生に向けての意見を外部に発信する。また、各部活動による各種事業で地域小中学生との交流会を実施する。 国内外交流：震災後の全国各地の高校との交流を継続する。また、異文化理解促進事業に基づく国外交流については、事業期間内に学校外学修として単位認定を図る。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ その他 特記事項</p>		<p>本校は平成30年度，近隣にある宮城県気仙沼西高等学校と再編統合し，地域における唯一の普通科高校として地域を牽引する学校に生まれ変わる。</p>